シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	こころとからだのしくみⅠ	担　当	安部 美恵子 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と 発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童 期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的･心理的･社会的特徴と発 達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化 を理解し、老化に伴う身体的･心理的･社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。

【授業の到達目標】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する

【授業の内容】

1	囚間の欲求
2	自己実現と尊厳
3	心のしくみの基礎
4	脳のしくみ
5	学習･記憶･思考のしくみ
6	認知･適応のしくみ
7	心のしくみの基礎 振り返り
8	体の部位の役割 細胞･遺伝･脳･神経
9	体の部位の役割 骨格
10	体の部位の役割 感覚器
11	体の部位の役割 呼吸器･消化器
12	体の部位の役割 生殖器･内分泌
13	心身の調和･恒常性 □
14	体の部位の役割 循環器･血液リンパ 薬の知識
15	からだのしくみを理解する 振り返り

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み（出席･受講態度･提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『こころとからだのしくみ』 ＜最新･介護福祉士養成講座 第11巻＞ 中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年(後期)	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態(講義)
科目名	こころとからだのしくみⅠ	担　当	安部 美恵子 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と 発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期(乳幼児期、学童 期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発 達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化 を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。

【授業の到達目標】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する

【授業の内容】

16	移動のしくみ
17	心身の機能低下が移動に及ぼす影響①
18	心身の機能低下が移動に及ぼす影響②
19	心身の機能低下が移動に及ぼす影響③
20	心身の機能低下が移動に及ぼす影響④
21	変化の気づきと対応
22	移動に関連した仕組み 振り返り
23	身支度のしくみ
24	心身の機能低下が身支度に及ぼす影響①
25	心身の機能低下が身支度に及ぼす影響②
26	心身の機能低下が身支度に及ぼす影響③
27	心身の機能低下が身支度に及ぼす影響④
28	心身の機能低下が身支度に及ぼす影響⑤
29	変化の気づきと対応
30	身支度に関連したしくみ 振り返り

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み(出席・受講態度・提出物等)20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『こころとからだのしくみ』 ＜最新・介護福祉士養成講座 第11巻＞ 中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	こころとからだのしくみⅡ	担当	安部 美恵子 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と 発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童 期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発 達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化 を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。

【授業の到達目標】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する

【授業の内容】

1	食事のしくみ
2	心身の機能低下が食事に及ぼす影響①
3	心身の機能低下が食事に及ぼす影響②
4	心身の機能低下が食事に及ぼす影響③
5	心身の機能低下が食事に及ぼす影響④
6	変化の気づきと対応
7	食事に関連した仕組み 振り返り
8	入浴・清潔保持のしくみ
9	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①
10	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②
11	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響③
12	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響④
13	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響⑤
14	変化の気づきと対応
15	入浴・清潔保持に関連した仕組み 振り返り

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『こころとからだのしくみ』 ＜最新・介護福祉士養成講座 第11巻＞ 中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（後期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	こころとからだのしくみⅡ	担　当	安部 美恵子 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と 発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童 期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発 達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化 を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。

【授業の到達目標】

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する

【授業の内容】

16	排泄のしくみ
17	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①
18	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②
19	変化の気づきと対応
20	排泄に関連した仕組み 振り返り
21	睡眠のしくみ
22	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響①
23	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響②
24	変化の気づきと対応
25	睡眠に関連した仕組み 振り返り
26	死を理解する
27	死に対するこころの理解
28	終末期から危篤状態、死後のからだの理解
29	終末期における医療職との連携
30	死にゆく人に関連した仕組み 振り返り

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『こころとからだのしくみ』＜最新・介護福祉士養成講座　第11巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	発達と老化の理解	担　当	安部 美恵子 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と 発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童 期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発 達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化 を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。

【授業の到達目標】

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を習得する。

【授業の内容】

1	成長・発達の考え方
2	成長・発達の原則・法則
3	成長・発達に影響する要因
4	発達理論①
5	発達理論②
6	発達段階と発達課題①
7	発達段階と発達課題②
8	身体的機能の成長と発達
9	心理的機能の発達
10	社会的機能の発達
11	老年期の定義
12	老化とは
13	老年期の発達課題
14	老年期をめぐる今日的課題
15	前期講義振り返り

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『こころとからだのしくみ』 ＜最新・介護福祉士養成講座　第11巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	発達と老化の理解	担　当	安部 美恵子 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と 発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童 期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発 達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化 を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。

【授業の到達目標】

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を習得する。

【授業の内容】

16	老化に伴う身体的な変化と生活への影響①
17	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②
18	老化に伴う身体的な変化と生活への影響③
19	健康長寿に向けての健康
20	高齢者の症状・疾患の特徴
21	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①
22	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②
23	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③
24	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④
25	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤
26	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥
27	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦
28	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑧
29	保険医療機関との連携
30	後期講義振り返り

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『こころとからだのしくみ』 ＜最新・介護福祉士養成講座　第11巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	人間と社会	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	人間の理解Ⅱ （人間関係とコミュニケーション）	担　当	安部　美恵子 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

1　対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。

2　介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

【授業の到達目標】

1　人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する。

2　介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材育成や活用といった人材管理を理解する。

3　組織の運営管理や人材育成に必要なリーダーシップやフォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する。

【授業の内容】

1	オリエンテーション　人類の進化と人間らしさ
2	自分と他者の理解
3	人間関係の形成とその人らしさの尊重
4	発達心理学からみた人間関係
5	社会心理学からみた人間関係
6	ストレスを考える
7	対人関係におけるコミュニケーション①　その概念と基本構造
8	対人関係におけるコミュニケーション②　言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
9	人間関係とコミュニケーション
10	対人援助における基本的態度
11	バイスティックの7原則から学ぶ援助的人間関係の形成
12	組織とコミュニケーション
13	コミュニケーションと学習について
14	前期全体を通しての小テストと前期定期試験にむけて
15	ふり返りとまとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『人間の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第1巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	人間と社会	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	人間の理解Ⅱ （人間関係とコミュニケーション）	担　当	安部　美恵子 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

1　対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。

2　介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

【授業の到達目標】

1　人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する。

2　介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材育成や活用といった人材管理を理解する。

3　組織の運営管理や人材育成に必要なリーダーシップやフォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する。

【授業の内容】

16	介護サービスの特性
17	介護現場で求められるチームマネジメント
18	チームマネジメントと人材育成
19	ケアを展開するためのチームマネジメント
20	施設ケアにおけるチームマネジメントと在宅ケアにおけるチームマネジメントを考える
21	リーダーシップとフォロワーシップについて
22	介護福祉職のキャリアと求められる実践力
23	介護福祉職としてのキャリアデザインを描く①　自己の歴史を振り返る
24	介護福祉職としてのキャリアデザインを描く②　全国で活躍する介護福祉士たち
25	介護福祉職のキャリア支援・開発【OJTとOFF-JT　スーパービジョン】
26	専門職団体が実践する研修体系について
27	介護サービスを支える組織について①　運営方針・理念を考えよう
28	介護サービスを支える組織について②　組織の構造と事業計画
29	前期全体を通しての小テストと後期定期試験にむけて
30	ふり返りとまとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『人間の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第1巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	教養	必修	1単位30時間	授業形態（演習）
科目名	家政学実習	担　当	平尾　和子		

【授業の概要】

調理や食文化に関する基本的な知識と技術について学ぶ。高齢者や障がい者に応じた、それぞれの状態の中での支援の方法と技術について学ぶ。

【授業の到達目標】

食・調理に関する様々ン知識や技能を習得し、高齢者や障がい者の家庭生活支援技術能力を養う。
また、安全でおいしく食べやすい食のととのえ方を学び、それぞれの状況下での支援の方法と技術を習得する。

【授業の内容】

1	実習の心得、目的、服装、衛生、調理方法の種類
2	調理の計測、道具の扱い方、材料の切り方
3	介護食の調理と留意点、摂食・嚥下障害
4	家政学実習①　調理基礎　実習室の使い方　実習のきまり
5	〃
6	家政学実習②　調理基礎
7	〃
8	家政学実習③　調理基礎
9	〃
10	家政学実習④　調理基礎
11	〃
12	家政学実習⑤　調理基礎
13	家政学実習⑥　調理基礎
14	〃
15	実習まとめ　定期試験について

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『五訂増補食品成分表』　実教出版
『家庭で作れる　かみやすい　飲み込みやすい　高齢者のやわらか食132』　株式会社Gakken

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	介護	必修	1単位30時間	授業形態（講義+実習）
科目名	生活支援技術Ⅳ	担　当	平尾　和子		

【授業の概要】

生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

【授業の到達目標】

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、安全に援助できる知識や技術について習得する。

被服や被服実技実習、家庭経済・消費生活に関する知識及び技術を身につけることを通して、いろいろな状況で適切に判断できる能力を養う。

【授業の内容】

1	被服生活の意義・目的・機能
2	被服の管理・素材
3	繊維・布の特徴
4	被服の選択・清掃・ごみ捨て
5	被服の縫製・補修　基礎実習①
6	被服の縫製・補修　基礎実習②
7	被服の縫製・補修　基礎実習③
8	被服の保管・管理
9	被服と衛生保持
10	被服の縫製　応用実習　作品制作①
11	被服の縫製　応用実習　作品制作②
12	高齢者・障がい者の被服・デザイン
13	ICFの視点にもとづくアセスメント
14	家庭生活と家庭経営
15	家庭経済と消費生活　まとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅰ』＜最新・介護福祉士養成講座　第6巻＞　中央法規出版

オリジナルプリント

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	介護	必修	1単位30時間	授業形態（講義+実習）
科目名	生活支援技術Ⅴ	担　当	平尾　和子		

【授業の概要】

生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

【授業の到達目標】

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、安全に援助できる知識や技術について習得する。栄養や調理に関する知識を身につけることを通して、いろいろな状況で適切に判断できる能力を養う。

【授業の内容】

1	食生活（家事）の意義目的、栄養とは ICFの視点に基づくアセスメント
2	栄養の理解　五大栄養素の働き　炭水化物、脂質
3	栄養の理解　たんぱく質、無機質、ビタミン
4	献立の立て方　献立作成
5	食品の購入と選択
6	食品の保存　食品衛生　食中毒
7	調理の基本　食品の調理性
8	調理実習：小麦粉の特性　高齢者用：野菜の下ごしらえ
9	大分県郷土料理　団子汁　石垣もち　やせうま
10	高齢者の身体機能と栄養　高齢者の食事と調理
11	調理実習：非常食　防災食について考える　ポリ袋で作るご飯
12	調理実習：間食　肉まん
13	障害者の栄養と食生活
14	高齢者の栄養　疾患と食生活改善
15	まとめ 定期試験について

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅰ』＜最新・介護福祉士養成講座　第6巻＞　中央法規出版

『五訂増補食品成分表』　実教出版

『家庭で作れる　かみやすい　飲み込みやすい　高齢者のやわらか食132』株式会社Gakken

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	認知症の理解	担　当	柴田　雄企		

【授業の概要】

認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の現状を理解する。また、認知症の原因となる主な病気や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解し、個々にあった的確なケアが提供できるための知識、支援体制のあり方やその具体的方法について学ぶ。

【授業の到達目標】

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症の人の体験や、生活の中での困難の特徴を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

【授業の内容】

1	認知症とは
2	脳の仕組み
3	認知症の人の心理
4	中核症状の理解
5	生活障がいの理解
6	BPSDの理解①　心理症状
7	BPSDの理解②　行動症状
8	BPSDの理解③　対応
9	認知症の診断と重症度①
10	認知症の診断と重症度②
11	アルツハイマー型認知症①
12	アルツハイマー型認知症②
13	血管性認知症
14	レビー小体型認知症　前頭側頭型認知症
15	若年性認知症

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『認知症の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第13巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	認知症の理解	担　当	柴田　雄企		

【授業の概要】

認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の現状を理解する。また、認知症の原因となる主な病気や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解し、個々にあった的確なケアが提供できるための知識、支援体制のあり方やその具体的方法について学ぶ。

【授業の到達目標】

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症の人の体験や、生活の中での困難の特徴を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

【授業の内容】

16	認知症の治療薬
17	認知症の予防
18	認知症の人を取り巻く状況
19	認知症ケアの理念と視点
20	認知症当事者の視点から見えるもの
21	パーソン・センタード・ケア
22	アセスメント・ツール　センター方式
23	アセスメント・ツール　ひもときシート
24	認知症の人とのコミュニケーション　認知症の人への様々なアプローチ　ユニマチュード
25	認知症の人への様々なアプローチ　バリデーション　リアリティ・オリエンテーション
26	認知症の人の終末期医療と介護　環境づくり
27	家族への支援①
28	家族への支援②
29	介護福祉職への支援
30	多職種連携と協働

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『認知症の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第13巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	医療的ケア	必修	3単位80時間	授業形態（講義+実習）
科目名	医療的ケア	担　当	渡邊　智恵美 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

医療的ケア実践の基礎と喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）、経管栄養（基礎的知識・実施手順）について学ぶ

【授業の到達目標】

介護福祉士が医行為の一部を業として行うことの背景を理解し、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識、留意点を理解する。シミュレーターを使用した各演習において、ケア実践の流れと留意点を習得する。

【授業の内容】

1	医療的ケアとは 実施の基礎知識
2	喀痰吸引制度の概要
3	医療的ケアと喀痰吸引等の背景
4	安全な実施・救急蘇生
5	感染予防 承諾・滅菌・手洗い
6	バイタルサイン 急変時の対応
7	心肺蘇生法の実際
8	呼吸器の働き 人工呼吸器
9	人工呼吸器と吸引
10	子どもの吸引
11	喀痰吸引により生じる危険・事後の確認
12	高齢者および障がい児者の喀痰吸引概論
13	高齢者および障がい児者の喀痰吸引実施手順
14	吸引の技術と留意点
15	喀痰吸引に伴うケア・口腔ケア

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20％、定期考査・実技試験の成績80％として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『医療的ケア』 ＜最新・介護福祉士養成講座　第15巻＞ 中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	医療的ケア	必修	3単位80時間	授業形態（講義+実習）
科目名	医療的ケア	担　当	渡邉　智恵美 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

医療的ケア実践の基礎と喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）、経管栄養（基礎的知識・実施手順）について学ぶ

【授業の到達目標】

介護福祉士が医行為の一部を業として行うことの背景を理解し、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識、留意点を理解する。シミュレーターを使用した各演習において、ケア実践の流れと留意点を習得する。

【授業の内容】

16	高齢者および障がい児者の経管栄養概論	31	気管カニューレ内部吸引の実際
17	消化器系のしくみとはたらき	32	気管カニューレ内部吸引の実際
18	消化・吸収とよくある消化器の症状	33	気管カニューレ内部吸引の実際
19	経管栄養とは・注入する内容に関する知識	34	経鼻経管栄養の実際
20	経管栄養実施上の留意点	35	経鼻経管栄養の実際
21	子どもの経管栄養・経管栄養に関する感染と予防	36	経鼻経管栄養の実際
22	生じる危険・注入後の安全確認	37	経鼻経管栄養の実際
23	ヒヤリハット アクシデント時の対応	38	胃瘻からの栄養の実際
24	器具・器材とその仕組み・清潔の保持	39	胃瘻からの栄養の実際
25	高齢者および障がい児者の経管栄養実施手順	40	胃瘻からの栄養の実際
26	口腔・鼻腔からの吸引の実際		
27	口腔・鼻腔からの吸引の実際		
28	口腔・鼻腔からの吸引の実際		
29	口腔・鼻腔からの吸引の実際		
30	気管カニューレ内部吸引の実際		

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査・実技試験の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『医療的ケア』＜最新・介護福祉士養成講座　第15巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	生活支援技術Ⅲ	担　当	渡邉　智恵美 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

【授業の到達目標】

①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解する
②生活上の困りごとを理解する
③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する

【授業の内容】

16	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
17	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
18	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
19	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
20	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
21	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
22	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
23	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
24	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
25	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
26	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
27	障害に応じた生活支援技術Ⅱ
28	施設見学①
29	施設見学②
30	後期総括

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査・実技試験の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅲ』＜最新・介護福祉士養成講座　第8巻＞ 中央法規出版

【参考書】

『障害の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第14巻＞ 中央法規出版

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	生活支援技術Ⅲ	担　当	渡邉　智恵美 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

【授業の到達目標】

①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解する
②生活上の困りごとを理解する
③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する

【授業の内容】

1	ガイダンス
2	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術
3	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
4	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
5	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
6	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
7	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
8	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
9	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
10	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
11	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
12	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
13	障害に応じた生活支援技術Ⅰ
14	実技試験
15	前期総括

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査・実技試験の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅲ』＜最新・介護福祉士養成講座　第8巻＞　中央法規出版

【参考書】

『障害の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第14巻＞　中央法規出版

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	障害の理解	担　当	渡邉　智恵美		
			看護師としての実務経験		

【授業の概要】

障害の理解では、障害基礎的理解のとして、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、他職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。

【授業の到達目標】

障害の基礎的理解として、障害概念や障がい者福祉基本理念のを学ぶ。医学的側面からは、各障害の症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解し、生活支援を考える。また、障害が及ぼす心理的影響や障害の受容なども学ぶ。さらには、障害のある人の特性を踏まえたアセスメントを行い、自立支援に むけた、地域におけるサポート体制や他職種協働のあり方、家族への支援についても学習する。

【授業の内容】

16	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
17	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
18	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
19	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
20	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
21	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
22	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
23	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
24	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
25	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
26	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
27	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
28	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ
29	連携と協働
30	後期総括

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『障害の理解』　＜最新・介護福祉士養成講座　第14巻＞　中央法規出版

【参考書】

『生活支援技術Ⅲ』　＜最新・介護福祉士養成講座　第8巻＞　中央法規出版

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	こころとからだのしくみ	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	障害の理解	担　当	渡邉　智恵美 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

障害の理解では、障害基礎的理解のとして、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、他職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。

【授業の到達目標】

障害の基礎的理解として、障害概念や障がい者福祉基本理念のを学ぶ。医学的側面からは、各障害の症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解し、生活支援を考える。また、障害が及ぼす心理的影響や障害の受容なども学ぶ。さらには、障害のある人の特性を踏まえたアセスメントを行い、自立支援に むけた、地域におけるサポート体制や他職種協働のあり方、家族への支援についても学習する。

【授業の内容】

1	ガイダンス
2	障害の概念と基本理念
3	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
4	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I
13	家族への支援
14	家族への支援
15	前期総括

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『障害の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第14巻＞　中央法規出版

【参考書】

『生活支援技術Ⅲ』＜最新・介護福祉士養成講座　第8巻＞　中央法規出版

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年(前期)	人間と社会	必修	1単位30時間	授業形態(講義)
科目名	人間の理解Ⅰ (人間の尊厳と自立)	担　当	渡邉　智恵美 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。

【授業の到達目標】

ここでは、人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性について理解することをねらいとする。「人間の尊厳」を理解するためには、「尊厳」の内容を具体化することが必要であり、その過程を通して、介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や配慮すべきことを同じ人として理解する。また、自分では気に留めないことでも、年代の違いによる尊厳の捉え方に多様性があることを理解できるよう、個人の生活変遷や社会変化における人間の価値観にも触れながら講義を行う。

【授業の内容】

1	ガイダンス
2	人間の尊厳と人権・福祉理念①
3	人間の尊厳と人権・福祉理念②
4	人間の尊厳と人権・福祉理念③
5	人間の尊厳と人権・福祉理念④
6	尊厳と自立をめぐる歴史的変遷①
7	尊厳と自立をめぐる歴史的変遷②
8	尊厳と自立をめぐる歴史的変遷③
9	尊厳と自立をめぐる歴史的変遷④
10	尊厳と自立をめぐる歴史的変遷⑤
11	尊厳と自立をめぐる歴史的変遷⑥
12	自立のあり方①
13	自立のあり方②
14	自立のあり方③
15	総括

【成績評価の方法と基準】

講義への取組(出席・受講態度・提出物等)20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『人間の理解』 ＜最新・介護福祉士養成講座　第1巻＞ 中央法規出版

【参考書】

講義で紹介

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	コミュニケーション技術	担　当	渡邉　智恵美 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケ ーションの 基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。

【授業の到達目標】

介護の対象者との支援関係の構築や情報の共有化等、介護実践に必要なコミュニケーションを習得する。また、利用者の特性に応じた適切なコミュニケーションの実践が可能となることをねらいとする。さらに、文章（記録、報告書等）を通じて介護実践に必要な個人情報の扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能となるようにする。

【授業の内容】

1	ガイダンス
2	コミュニケーションの基本
3	コミュニケーションの対象
4	援助関係とコミュニケーション①
5	援助関係とコミュニケーション②
6	コミュニケーションの基本技術①
7	コミュニケーションの基本技術②
8	コミュニケーションの基本技術③
9	コミュニケーションの基本技術④
10	コミュニケーションの基本技術⑤
11	チームのコミュニケーション①
12	チームのコミュニケーション②
13	チームのコミュニケーション③
14	チームのコミュニケーション④
15	前期総括

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『コミュニケーション技術』 <最新・介護福祉士養成講座　第5巻> 中央法規出版

【参考書】

講義で紹介

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（後期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	コミュニケーション技術	担　当	渡邉　智恵美 看護師としての実務経験		

【授業の概要】

コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケ ーションの 基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。

【授業の到達目標】

介護の対象者との支援関係の構築や情報の共有化等、介護実践に必要なコミュニケーションを習得する。また、利用者の特性に応じた適切なコミュニケーションの実践が可能となることをねらいとする。さらに、文章（記録、報告書等）を通じて介護実践に必要な個人情報の扱い方や情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能となるようにする。

【授業の内容】

16	特性に応じたコミュニケーション①
17	特性に応じたコミュニケーション②
18	特性に応じたコミュニケーション③
19	特性に応じたコミュニケーション④
20	特性に応じたコミュニケーション⑤
21	特性に応じたコミュニケーション⑥
22	特性に応じたコミュニケーション⑦
23	特性に応じたコミュニケーション⑧
24	特性に応じたコミュニケーション⑨
25	特性に応じたコミュニケーション⑩
26	家族とのコミュニケーション①
27	家族とのコミュニケーション②
28	事例検討に関する技術①
29	事例検討に関する技術②
30	後期総括

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20％、定期考査の成績80％として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『コミュニケーション技術』 ＜最新・介護福祉士養成講座　第5巻＞ 中央法規出版

【参考書】

講義で紹介

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	介護の基本Ⅱ	担　当	清水　明彦 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目。

【授業の到達目標】

1. 介護を受けて生活する人およびその生活について理解する。
2. 介護を必要とする人の生活を支える観点から、フォーマルおよびインフォーマルな支援、他職種連携・地域連携について理解する。
3. 介護における安全の確保、リスクを回避するための方法などについて理解する。
4. 介護従事者が心身ともに健康に、介護をを実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。

【授業の内容】

1	第1章　私たちの生活の理解　（生活とは何か？　介護を必要とする人たちの暮らしを理解する）
2	〃　（その人らしさとは？　生活のしづらさについて考える）
3	第2章　介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ（地域共生社会、地域包括ケアシステム）
4	〃　（生活を支える社会的サービス①：居宅サービス）
5	〃　（生活を支える社会的サービス②：施設サービス）
6	〃　（生活を支える社会的サービス③：地域密着型サービス）
7	〃　（生活を支える社会的サービス④：障害福祉サービス・介護給付）
8	〃　（生活を支える社会的サービス⑤：障害福祉サービス・訓練等給付）
9	〃　（地域連携の意義、地域連携に関わる機関の理解①：地域包括支援センター、社協、NPO法人）
10	〃　（　〃　②：地域福祉の担い手）
11	第3章　介護における安全の確保とリスクマネジメント（介護における安全の確保、セーフティーマネジメント）
12	〃　（リスクマネジメントとは何か？　身体拘束について）
13	〃　（感染症対策　感染に関する知識）
14	前期振り返り①
15	前期振り返り②

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20％、定期考査の成績80％として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『介護の基本Ⅱ』＜最新・介護福祉士養成講座　第4巻＞　中央法規出版

【参考書】

『社会の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第2巻＞　中央法規出版

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（後期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	介護の基本Ⅱ	担　当	清水　明彦 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としの能力と態度を養うための科目。

【授業の到達目標】

1. 介護を受けて生活する人およびその生活について理解する。
2. 介護を必要とする人の生活を支える観点から、フォーマルおよびインフォーマルな支援、他職種連携・地域連携について理解する。
3. 介護における安全の確保、リスクを回避するための方法などについて理解する。
4. 介護従事者が心身ともに健康に、介護をを実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。

【授業の内容】

16	生活を支えるフォーマルサービス　・介護保険法（前期復習）
17	生活を支えるフォーマルサービス　・障害者総合支援法（前期復習）
18	生活を支えるインフォーマルサービス　・インフォーマルサービスの種類と提供者
19	第4章　協働する他職種の機能と役割（他職種連携・協働とは）
20	〃　（保険・医療・福祉職の役割と機能①
21	〃　（保険・医療・福祉職の役割と機能②　事業所に配置される専門職
22	（他職種連携・協働の必要性）
23	〃　（他職種連携・協働に求められる基本的な能力
24	（他職種連携・協働の実際）
25	第5章　介護従事者の安全（健康管理の意義と目的）
26	〃　（働く人の健康や生活を守る法制度）
27	〃　（こころの健康管理、身体の健康管理）
28	〃　（労働環境の整備）
29	後期振り返り①
30	後期振り返り②

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満　D

【テキスト】

『介護の基本Ⅱ』＜最新・介護福祉士養成講座　第4巻＞　中央法規出版

【参考書】

『社会の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第2巻＞　中央法規出版

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	人間と社会	必修	1単位30時間	授業形態（講義）
科目名	社会の理解Ⅱ	担　当	清水　明彦 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護に関する近年の社会保障制度の大きな変革である介護保険制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。

【授業の到達目標】

1. 高齢者保健福祉の動向について理解する。
2. 高齢者保健福祉に関する法体系について理解する。
3. 介護保険制度の仕組みについて理解する。

【授業の内容】

1	高齢者保健福祉の動向
2	人口の高齢化と高齢者保健福祉
3	高齢者保健福祉に関連する法体系
4	介護保険制度創設の背景と目的・介護保険法の目的と理念
5	介護保険制度の仕組み①　・仕組みの概要
6	介護保険制度の仕組み②　・保険の仕組みを理解する
7	介護保険制度の仕組み③　・被保険者と保険者、介護保険料、介護保険制度の財源
8	介護保険制度の仕組み④　・介護保険制度における利用者負担、介護保険サービスの利用手続き（要介護認定の流れ、ｹｱﾌﾟﾗﾝ作成）
9	介護保険制度の仕組み⑤　・介護保険サービスの種類と内容（居宅サービス、施設サービス）
10	介護保険制度の仕組み⑥　・介護保険サービスの種類と内容（地域密着型サービス、地域支援事業）
11	介護保険制度の仕組み⑦　・地域包括ケアシステム
12	介護保険制度の仕組み⑧　・介護保険制度における組織、団体の役割
13	介護保険制度の動向①
14	介護保険制度の動向②
15	まとめ　・定期試験対策と解説

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満　D

【テキスト】

『社会の理解』　<最新・介護福祉士養成講座　第2巻>　中央法規出版

【参考書】

『福祉小六法』　中央法規出版

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	人間と社会	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	人間の理解Ⅳ（人間関係とコミュニケーション・点字）	担　当	田中　祐子		

【授業の概要】

人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュ ニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケ ーションについて理解する。チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を 踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。

【授業の到達目標】

・視覚障害者の日常生活・心理等について知識理解を深める。
・視覚障害者のコミュニエーション、特に点字について理解し技能を習得すができる。
・点字器による点訳書製作やパソコンを活用した点訳書製作ができる。

【授業の内容】

1	点字の仕組み　五十音の読み方　点字器の使い方
2	点字を打つ時のポイント
3	濁音・半濁音・拗音　2マスでつくる字
4	濁音・半濁音・拗音・特殊音の入った語句の点訳・墨訳
5	点字の表記　仮名遣い　「う」の表し方
6	点字の表記　仮名遣い　外来語　促音　文の読み
7	仮名遣いまとめ　名前を点字で　数字の表し方
8	数字の表し方　数符を使うとき　カナを使うとき
9	数符を使った文の点訳・墨訳
10	分節分かち書き
11	視覚障がい者の状況
12	点字で手紙を書こう
13	アルファベッドの表し方　略語と英単語　英文のちがい
14	アルファベッド表し方　読み
15	数字・アルファベッドの注意

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満　D

【テキスト】

『初めての点訳』全国視覚障がい者情報提供施設協会

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	人間と社会	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	人間の理解Ⅳ （人間関係とコミュニケーション・点字）	担　当	田中　祐子		

【授業の概要】

人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュ ニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケ ーションについて理解する。チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を 踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。

【授業の到達目標】

・視覚障害者の日常生活・心理等について知識理解を深める。
・視覚障害者のコミュニエーション、特に点字について理解し技能を習得すができる。
・点字器による点訳書製作やパソコンを活用した点訳書製作ができる。

【授業の内容】

16	分かち書き　補助動詞
17	分かち書き　補助動詞　連体詞　副詞　複合語
18	分かち書き　複合語　固有名詞
19	分かち書き　固有名詞　記号類（句点・読点）
20	記号類　（カッコ・カギ・棒線・点線）
21	点訳絵本作成オリエンテーション　絵本点訳（1）
22	絵本点訳（2）
23	絵本点訳（3）
24	パソコン点訳（1）　6点入力
25	パソコン点訳（2）　言葉・文の入力
26	パソコン点訳（3）　記号・文の入力　入力方法
27	パソコン点訳（4）　絵本作製
28	パソコン点訳（5）　絵本作製
29	パソコン点訳（6）　絵本校正　仕上げ
30	点訳まとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『初めての点訳』 全国視覚障がい者情報提供施設協会

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	人間と社会	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	人間の理解Ⅲ（人間関係とコミュニケーション・手話）	担　当	柳井　洋子		

【授業の概要】

人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュ ニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケ ーションについて理解する。チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を 踏 まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の起訴を学ぶ。。

【授業の到達目標】

・聴覚障害者問題の理解と解決のために音のない世界、聞こえない人たちの苦しみ、不便さを社会福祉の中で考えることができる
・聞こえない人と手話で簡単な日常会話ができる。
・聴覚障害者について理解する。・超買う障害者や手話について、その歴史、現状、課題を知ることができる。
・コミュニケーションの大切さや楽しさを体験する。

【授業の内容】

1	手話の基礎　自己紹介
2	手話によるコミュニケーション①　伝え合う
3	手話によるコミュニケーション②　伝え合う
4	手話によるコミュニケーション③　単語
5	手話によるコミュニケーション④　会話　指文字
6	手話によるコミュニケーション⑤　手話の読み取り
7	手話によるコミュニケーション⑥　困ること①　パーの形の手話
8	手話によるコミュニケーション⑦　困ること②③　グーの形の手話
9	手話によるコミュニケーション⑧　困ること④⑤　指さしの形の手話
10	手話によるコミュニケーション⑨　困ること⑥「手話言語条例について」
11	手話によるコミュニケーション⑩　視覚言語としての手話の使い分け
12	手話によるコミュニケーション⑪　困ること⑦　疑問文「難聴のしくみ」
13	気持ちの手話　災害の時に困ること
14	表現テスト　自己紹介と質問
15	表現テスト　単語の復習

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満　D

【テキスト】

『ハジメテノ手話テキスト』　全国手話研修センター

『ボランティアの手引き』　大分県聴覚障がい協会

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	人間と社会	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	人間の理解Ⅲ （人間関係とコミュニケーション・手話）	担　当	柳井　洋子		

【授業の概要】

人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュ ニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケ ーションについて理解する。チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を 踏 まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の起訴を学ぶ。。

【授業の到達目標】

・聴覚障害者問題の理解と解決のために音のない世界、聞こえない人たちの苦しみ、不便さを社会福祉の中で考えることができる。
・聞こえない人と手話で簡単な日常会話ができる。
・聴覚障害者について理解する。・超買う障害者や手話について、その歴史、現状、課題を知ることができる。
・コミュニケーションの大切さや楽しさを体験する。

【授業の内容】

16	手話によるコミュニケーション①　都道府県の手話①
17	手話によるコミュニケーション②　都道府県の手話②
18	手話によるコミュニケーション③　手話の表情①「私と小鳥と鈴と」
19	手話によるコミュニケーション④　手話の表情②「私と小鳥と鈴と」 うなずき
20	手話によるコミュニケーション⑤　単語と会話　現在・過去・未来
21	CL①　絵しりとり
22	CL②　レストランで困ること
23	CL③　ショッピングで困ること
24	CL④　会話練習　手話コーラス
25	交流会の練習
26	CL⑤　動詞と名詞
27	短文練習①
28	短文練習②
29	短文練習③
30	単語復習　短文テスト

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『ハジメテノ手話テキスト』 全国手話研修センター
『ボランティアの手引き』　大分県聴覚障がい協会

【参考書】

【備　考】

シ ラ バ ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	介護	必修	1単位30時間	授業形態（講義+演習）
科目名	生活支援技術Ⅰ	担 当	戸川 佳良子 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

【授業の到達目標】

住まいの役割と機能、加齢と生活空間、快適な室内環境を理解する。生活支援における福祉用具の重要性、適切な福祉用具を選ぶための視点を習得する。

【授業の内容】

1	住まいの役割と機能
2	生活空間の意味
3	快適な室内環境
4	安全に暮らすための生活環境
5	高齢者・障がい者の住まい
6	居住環境の整備における多職種との連携
7	生活支援における福祉用具の重要性
8	福祉用具の種類
9	適切な福祉用具を選びための視点①
10	適切な福祉用具を選びための視点②
11	応急手当について
12	応急手当の実際
13	被災地で活躍する際の心構え
14	災害時における生活支援
15	まとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅰ』＜最新・介護福祉士養成講座 第6巻＞ 中央法規出版

【参考書】

【備 考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（後期）	教養	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	教養国語	担　当	富成　碩甫		

【授業の概要】

文章の構成について、読む・書くを主体に、読みやすい文章の書き方を学ぶ。実習記録や介護記録の様式を用い、実践的な記録の方法について学ぶ。

【授業の到達目標】

・文章を読み解く技術を身に付ける。
・文章を書くための技術を身に付ける。
・実用的な国語力を身に付ける。
・語彙力を身に付ける。

【授業の内容】

16	「書くこと」を見つける　文章の整え方①
17	文章の整え方②
18	文章の整え方③
19	文章の整え方④
20	文章の整え方⑤
21	敬語の使い方①
22	敬語の使い方②　敬語動詞　用語漢字
23	敬語動詞　敬語問題
24	手紙の書き方　封書
25	手紙の書き方　便箋
26	履歴書の書き方　試験対策作文「介護福祉士に必要なこと」
27	暦法について　試験対策作文練習
28	用語漢字　試験対策作文練習
29	用語漢字　試験対策作文練習
30	用語漢字　試験対策作文練習

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20％、定期考査の成績80％として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

オリジナルプリント

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	教養	必修	1単位30時間	授業形態（講義）
科目名	教養国語	担　当	冨成　碩甫		

【授業の概要】

文章の構成について、読む・書くを主体に、読みやすい文章の書き方を学ぶ。
実習記録や介護記録の様式を用い、実践的な記録の方法について学ぶ。

【授業の到達目標】

・介護記録の書き方
・介護記録の読み方
・介護記録の活かし方

【授業の内容】

1	介護記録の書き方「事実を明確に書く」
2	介護記録の書き方「敬語の使い方」
3	介護記録の書き方「よりよいケアのための書く」
4	介護記録の書き方「尊厳を大切にする視点」①
5	介護記録の書き方「尊厳を大切にする視点」②
6	介護記録の書き方「プライバシー」
7	介護記録の書き方　ヒヤリハット「転倒」
8	介護記録の書き方「特変なし」
9	5W1Hで書く　総合問題
10	「何を　どうしたら　どうなった」で書く　総合問題
11	介護記録「利用者様の情報」
12	介護記録「医療的ケア」
13	介護記録「認知症ケア」①　介護百人一首
14	介護記録「認知症ケア」②　介護百人一首
15	介護記録を書く

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

オリジナルプリント

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	介護	必修	10単位456時間	授業形態（実習）
科目名	介護実習Ⅰ	担　当			

【授業の概要】

介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。

【授業の到達目標】

①介護福祉士の活躍する様々な福祉施設の概要を知る。

②介護福祉士の役割を理解する。

③コミュニケーションの大切さを知る。

【実習の内容】

1. 福祉施設の概要を知る。
　運営方針・特色・対象利用者・職員の職種・業務体制などを知る。
　施設概要記録表を作成する。

2. 介護福祉士の役割を理解する。
　介護職員の業務内容を知る。
　施設別の介護福祉士の役割を理解する。
　介護技術の意味を考え、根拠を意識して実践する。

3. コミュニケーションの大切さを知る。
　利用者と積極的にコミュニケーションを図る。
　利用者の尊厳保持の重要性を知る。
　目線を合わせ、傾聴する。
　声の大きさ、高さ、速度、表情を考える。
　利用者との距離、共感的態度を理解する。
　指導職員に報告・連絡・相談を行う。
　自分の所在を明らかにし、援助終了後は速やかに報告できるようにする。

4. カンファレンスの持ち方を学ぶ。
　実習進度の調整を含めた振り返りを行う。

5. 実習記録表の正しい記録方法を学ぶ。
　1日の実習内容と考察、振り返りを実習記録表に記録し、実習のまとめを行う。
　指導者のコメントは必ず読み、回答が必要な場合は、口頭もしくは次の日の記録の中に記載する。

【成績評価の方法と基準】

実習への取組み20%、、巡回指導の内容、施設評価等を80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（後期）	介護	必修	10単位456時間	授業形態（実習）
科目名	介護実習Ⅱ	担　当			

【授業の概要】

介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において 個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護 技術の確認、多職種協働や関係機関 との連携を通じてチームの一員としての介護福 祉士の役割を理解する。個別ケアを行うために、個々の生 活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿 って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連 の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サー ビ スの提供の基本となる実践力を身につける。

【授業の到達目標】

①利用者の状態を観察することができる。

②安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。

③対人援助を意識したコミュニケーションをとることができる。

【実習の内容】

1. 利用者の状態を観察する。
　利用者とのコミュニケーションを図る時、何を知ろうとするのかを意識し、意図をもって観察する。
　利用者の身体的・精神（心理）的・社会的・生活歴の視点から情報をまとめ、全体像を把握する。

2. 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践する。
　個別介護の必要性を理解し、個々の利用者に適した介護技術を体得する。
　利用者の状態を把握し、根拠に基づいた介護技術の実践を行う。
　指導者の指導のもと、実践する。
　24時間の生活援助を学ぶ。
　生活援助は利用者の24時間の生活を把握することから始まることを理解する。

3. 対人援助を意識したコミュニケーションをとることができる。
　援助場面において、行う援助の説明、同意を得る、体調観察等、適切な声かけを行う。
　尊厳をもってコミュニケーションを図り、信頼関係を築く。

4. カンファレンスの持ち方を学ぶ。
　実習進度の調整を含めた振り返りを行う。
　実習終了時には、実習課題の達成度および2段階実習の振り返りを実習指導者へ報告し、指導者から助言をいただく。

【成績評価の方法と基準】

実習への取組み20%、、巡回指導の内容、施設評価等を80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	介護	必修	10単位456時間	授業形態（実習）
科目名	介護実習Ⅲ	担　当			

【授業の概要】

介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において 個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護 技術の確認、多職種協働や関係機関 との連携を通じてチームの一員としての介護福 祉士の役割を理解する。個別ケアを行うために、個々の生 活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿 って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連 の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サー ビ スの提供の基本となる実践力を身につける。

【授業の到達目標】

①介護過程の展開を理解する。
②根拠に基づいた介護技術を実践できる。

【実習の内容】

1. 介護過程の展開方法を理解する。
　展開に必要な情報を収集する。
　対象者を決定し、情報収集を行う。
　アセスメント表に情報を記録する。
　アセスメントを行い、生活課題を明確にする。
　情報の解釈・関連付け・統合化を行う。
　アセスメント表に記録する。
　個別援助計画を立案する。
　短期目標・長期目標を設定する。
　援助内容・支援方法を設定する。
　個別援助計画書に記録する。
　個別援助計画を実施する。
　立案した個別援助計画に基づき支援を実施する。
　自立支援・安全性・尊厳の保持に留意する。
　実施記録表に記録する。

2. 根拠に基づいた介護技術を実践する。
　介護計画に基づいた個別介護を理解する。
　利用者一人ひとりに適した介護方法を実践する。
　根拠に基づいた介護技術の実践を行う。
　夜勤実習を通して、利用者の24時間の生活を支援する。

3. カンファレンスの持ち方を理解する。
　カンファレンスの運営方法を知り、援助方法へのつながり、多職種協働を理解する。

4. 実習記録表を記入する。
　1日の実習内容と考察、振り返りを実習記録表に記録し、実習のまとめを行う。
　指導者に提出し、指導者からのコメントは必ず読む。

【成績評価の方法と基準】

実習への取組み20%、、巡回指導の内容、施設評価等を80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年(前期)	介護	必修	1単位30時間	授業形態(講義)
科目名	介護の基本Ⅳ	担　当	岡田　恵子		

【授業の概要】

介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理 に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしく み、自立支援、介護実践における安 全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従 事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に 学ぶ。

【授業の到達目標】

・レクリエーション支援の理解を深め、コミュニケーションを磨く
・アイスブレーキング、ホスピタリティを理解する
・レクリエーション活動の実践、指導方法を身に付ける

【授業の内容】

1	レクリエーションの理解	(実践)コミュニケーションスキルアップ①
2	レクリエーション活動がもたらす心の仕組み①	(実践)コミュニケーションスキルアップ②
3	レクリエーション活動がもたらす心の仕組み②	(実践)コミュニケーションスキルアップ③
4	レクリエーション活動がもたらす心の仕組みⅢ	(実践)コミュニケーションスキルアップ④
5	ライフステージ・対象者ごとの課題の共有	
6	ICFに基づいたレクリエーション支援の理解①	
7	ICFに基づいたレクリエーション支援の理解②	
8	セレピューティックレクリエーションの理解	
9	アイスブレーキング・ホスピタリティーの理解	(実践)グループワーク①
10	レクリエーション活動展開法	(実践)グループワーク②
11	レクリエーション活動の実践・指導①	(実践)グループワーク③
12	レクリエーション活動の実践・指導②	(実践)グループワーク④
13	レクリエーション活動の実践・指導③	(実践)グループワーク⑤
14	レクリエーション活動の実践・指導④	(実践)グループワーク⑥
15	レクリエーション活動の実践・指導⑤	(実践)グループワーク⑦

【成績評価の方法と基準】

講義への取組(出席・受講態度・提出物等)20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『楽しさをとおした心の元気づくり・レクリエーション支援の理論と方法』日本レクリエーション協会

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年(後期)	介護	必修	1単位30時間	授業形態(講義)
科目名	介護の基本Ⅲ	担　当	市川　泰朗 理学療法士としての実務経験		

【授業の概要】

介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理 に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしく み、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、他職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に 学ぶ。

【授業の到達目標】

「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習とする。また介護における安全やチームケア等について理解する。

【授業の内容】

1	コースオリエンテーション
2	総論①　リハビリテーションの理念・領域と役割
3	総論②　リハビリテーションの考え方・ICFについて
4	総論③　リハビリテーションと福祉用具・住宅改造
5	実技①　基本動作の介助法・ボディメカニクス
6	各論①　リハビリテーション介護①
7	各論②　リハビリテーション介護②
8	各論③　高齢者のリハビリテーション
9	各論④　障害別のリハビリテーションの実際①　廃用症候群
10	各論⑤　障害別のリハビリテーションの実際②　脳卒中
11	各論⑥　障害別のリハビリテーションの実際③　整形外科疾患
12	実技②　車イス操作・杖歩行・腰痛体操
13	各論⑦　ICFケーススタディ
14	各論⑧　地域リハビリテーション
15	まとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取組(出席・受講態度・提出物等)20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『介護の基本Ⅰ』＜最新・介護福祉士養成講座　第3巻＞ 中央法規出版

オリジナルプリント

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態（講義）
科目名	介護の基本Ⅰ	担　当	戸川　佳良子 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力を養うことを学ぶねらいとしていく。

【授業の到達目標】

① 介護福祉士の基本となる理念及び介護の概念を正しく理解する。
② 介護福祉士の役割と機能について理解する。
③ 介護福祉士の倫理について理解する。
④ 自立に向けた介護について、ICFの視点やリハビリテーションの視点、介護予防の視点等を学び多面的に理解していく。

【授業の内容】

1	オリエンテーション　専門職による「介護」が誕生した社会的な背景
2	介護の成り立ちについて
3	介護の概念の変遷①　1970年代～
4	介護の概念の変遷②　介護の業の変遷と介護福祉士
5	介護福祉の基本理念①　尊厳を支える介護とは
6	介護福祉の基本理念②　自立を支える介護とは
7	事例から「介護福祉の理念」と「実践」を考える①
8	事例から「介護福祉の理念」と「実践」を考える②
9	介護福祉士の役割と機能①　地域包括ケアシステムについて
10	介護福祉士の役割と機能②　介護福祉士が活躍する場と終末期のケアについて
11	介護福祉士の役割と機能③　災害時の支援
12	社会福祉士及び介護福祉士法について　介護福祉士の義務規定と取得方法について
13	求められる介護福祉士像について
14	小テストと定期試験対策
15	ふり返りとまとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『介護の基本Ⅰ』＜最新・介護福祉士養成講座　第3巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年(後期)	介護	必修	2単位60時間	授業形態(講義)
科目名	介護の基本Ⅰ	担　当	戸川　佳良子 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力を養うことを学ぶねらいとしていく。

【授業の到達目標】

① 介護福祉士の基本となる理念及び介護の概念を正しく理解する。
② 介護福祉士の役割と機能について理解する。
③ 介護福祉士の倫理について理解する。
④ 自立に向けた介護について、ICFの視点やリハビリテーションの視点、介護予防の視点等を学び多面的に理解していく。

【授業の内容】

16	介護福祉士の倫理について①　倫理的な介護実践について
17	介護福祉士の倫理について②　事例に基づいた倫理的な介護実践
18	日本介護福祉士会の倫理綱領
19	自立支援の考え方
20	ICFの考え方について
21	自立支援とリハビリテーション①
22	自立支援とリハビリテーション②
23	自立支援と介護予防について①
24	自立支援と介護予防について②
25	小テストとふり返り
26	実践学としての介護
27	障害者にとっての自立　障害者心理から読み取る自立支援の考え方
28	専門職の中における介護福祉士の魅力
29	定期試験対策
30	全体のふり返りとまとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組(出席・受講態度・提出物等)20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満　D

【テキスト】

『介護の基本Ⅰ』＜最新・介護福祉士養成講座　第3巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年(前期)	介護	必修	2単位60時間	授業形態(演習)
科目名	生活支援技術Ⅱ－Ⅰ	担　当	清水　明彦 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

【授業の到達目標】

介護福祉士は、支援が必要な利用者(高齢者、障がい者)に対して、自立(自律)した生活が 送れるように、利用者個々の状況に合わせた介護を行う専門職である。生活支援技術では、利用者が尊厳 をもって、その人らしい生活を送るうえで、介護職が支援する際に必要な考え方や技法を習得する。

【授業の内容】

1	生活支援の基本的な考 え方
2	室内環境 の 調整
3	ベッドメイキング
4	臥床時のベッドメイキング
5	食事の介護
6	利用者の状態に応じた食事
7	清潔保持の介護
8	清潔保持の介護の基本
9	清潔保持の介護の実際
10	入浴の介護の留意点
11	入浴の介護の実際
12	排泄の介護
13	排泄の介護の留意点
14	排泄の介護の実際
15	前期振り返り　前期試験対策・解説

【成績評価の方法と基準】

講義への取組み20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満　D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅱ』＜最新・介護福祉士養成講座　第7巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（後期）	専門科目	必修	2単位60時間	授業形態（演習）
科目名	生活支援技術Ⅱ－Ⅰ	担　当	清水　明彦 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。

【授業の到達目標】

介護福祉士は、支援が必要な利用者（高齢者、障がい者）に対して、自立（自律）した生活が 送れるように、利用者個々の状況に合わせた介護を行う専門職である。生活支援技術では、利用者が尊厳 をもって、その人らしい生活を送るうえで、介護職が支援する際に必要な考え方や技法を習得する。

【授業の内容】

16	入浴の介護　特殊浴槽①
17	入浴の介護　特殊浴槽②
18	排泄の介護　オムツ交換①
19	排泄の介護　オムツ交換②
20	清潔の介護　部分浴
21	清潔の介護　全身清拭
22	休息・睡眠とは
23	休息・睡眠の介護の実際①
24	休息・睡眠の介護の実際②
25	休息・睡眠の介護と多職種協働
26	最終段階における介護の意義と役割
27	最終段階における介護の実際①
28	最終段階における介護の実際②
29	最終段階における介護の実際③
30	後期振り返り　後期試験対策・解説

【成績評価の方法と基準】

講義への取組み20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上　A　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　60点未満 D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅱ』＜最新・介護福祉士養成講座　第7巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　　ラ　　バ　　ス

令和8年度

智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（後期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態（講義+演習）
科目名	介護過程の展開Ⅰ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関す る基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。

【授業の到達目標】

他の科目で学んだことを生かし、個別ケアを具体的に実現する方法を身に付けるために、介護過程は重要な科目である。介護過程Ⅰでは、個別ケアを実現するために必要な情報収集の方法を修得する。

【授業の内容】

1	介護過程の意義と目的	16	生活課題の明確化
2	介護過程の全体像	17	介護計画の立案とは
3	介護過程とICF	18	介護目標の設定　長期目標と短期目標
4	生活支援における介護過程の意義	19	具体的な支援内容・支援方法①
5	介護過程とケアマネジメント①	20	具体的な支援内容・支援方法②
6	介護過程とケアマネジメント②	21	実施の留意点
7	情報収集の目的	22	実施の記録
8	情報収集の視点・方法・留意点	23	評価の意義と目的
9	情報収集の実際　事例展開①	24	評価の内容と方法
10	情報収集の実際　事例展開②	25	事例展開①　情報収集
11	アセスメントの視点	26	事例展開②　情報収集
12	アセスメントの方法①　情報の解釈	27	事例展開③　情報収集
13	アセスメントの方法②　情報の関連付け・統合化	28	事例展開④　アセスメント
14	アセスメントの実際　事例展開①	29	事例展開⑤　アセスメント
15	アセスメントの実際　事例展開②	30	前期のまとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『介護過程』＜最新・介護福祉士養成講座 第9巻＞ 中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度

智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	介護	必修	2単位60時間	授業 形態（講義+演習）
科目名	介護過程の展開Ⅱ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。

【授業の到達目標】

「アセスメント」「計画の立案」「実施」「評価」の四つのプロセスについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、事例を用いて、具体的な展開方法を理解する。

【授業の内容】

1	アセスメントの実際①	16	計画立案
2	アセスメントの実際②	17	実施と記録
3	生活支援の課題・目標のとらえ方	18	実施と記録
4	事例展開①　課題の明確化・目標設定	19	評価
5	事例展開②　課題の明確化・目標設定	20	評価
6	個別援助計画とは	21	介護過程の展開の実際（事例2）　情報収集
7	事例展開③　計画立案の実際	22	アセスメント
8	事例展開④　計画立案の実際	23	課題の明確化
9	個別援助計画の実施の留意点	24	目標の設定
10	事例展開⑤　実施記録の実際	25	計画立案
11	介護過程における評価	26	計画立案
12	事例展開⑥　評価の留意点・評価の記録	27	実施と記録
13	介護過程の展開の実際（事例１）　情報収集	28	評価
14	情報の整理	29	評価
15	計画立案	30	前期のまとめ

【成績 評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『介護過程』＜最新・介護福祉士養成講座　第9巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	介護	必修	1単位30時間	授業形態（講義+演習）
科目名	介護過程の展開Ⅲ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。

【授業の到達目標】

「アセスメント」「計画の立案」「実施」「評価」の四つのプロセスについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、事例を用いて、具体的な展開方法を理解する。

【授業の内容】

1	介護過程の展開Ⅱ　振り返り
2	事例検討①　個別事例の再アセスメント
3	事例検討②　実施
4	事例検討③　評価
5	事例検討④　個別事例まとめ
6	ケアマネジメントの全体像
7	ケアプランと個別援助計画の関係性
8	チームアプローチの意義
9	都会に住む1人暮らしの高齢者の生活 支援
10	離島出身の高齢者の在宅復帰支援
11	在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援
12	医療的な処置が必要な高齢者の生活支援
13	片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援
14	災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者への支援
15	後期まとめ

【成績 評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『介護過程』＜最新・介護福祉士養成講座　第9巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度

智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	介護	必修	2単位60時間	授業形態　（講義+演習）
科目名	介護総合演習Ⅰ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習 とする。

【授業の到達目標】

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の報告会など、実習に必要な知識や技術について、総合的に理解する。

【授業の内容】

1	介護実習の意義と目的	16	実習に必要な記録物②
2	介護実習の流れ	17	実習記録について
3	介護実習の施設概要①	18	実習記録の実際①
4	介護実習の施設概要②	19	実習記録の実際②
5	実習報告会	20	実習課題について
6	見学実習・高齢者疑似体験について	21	実習課題の実際
7	高齢者疑似体験①	22	介護実習の実際①
8	高齢者疑似体験②	23	介護実習の実際②
9	見学実習①	24	実習生としての基本事項①
10	見学実習②	25	実習生としての基本事項②
11	1段階実習の意義と目的	26	実習施設別オリエンテーション
12	1段階実習の内容	27	訪問介護実習オリエンテーション
13	訪問介護実習の意義と目的	28	1段階実習振り返り①
14	訪問介護実習の内容	29	1段階実習振り返り②
15	実習に必要な記録物①	30	評価申し渡し

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『介護総合演習・介護実習』＜最新・介護福祉士養成講座　第10巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年(後期)	介護	必修	1単位30時間	授業形態(講義+演習)
科目名	介護総合演習Ⅱ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習 とする。

【授業の到達目標】

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、総合的に理解する。

【授業の内容】

1	2段階実習の意義と目的
2	2段階実習内容①
3	2段階実習内容②
4	2段階実習施設概要①
5	2段階実習施設概要②
6	実習課題について
7	実習の記録物について
8	実習報告会について
9	実習施設別オリエンテーション
10	実習帰校日
11	2段階実習振り返り・評価申し渡し
12	実習報告会準備①
13	実習報告会準備②
14	実習報告会準備③
15	実習報告会準備④

【成績 評価の方法と基準】

講義への取組(出席・受講態度・提出物等)20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『介護総合演習・介護実習』 ＜最新・介護福祉士養成講座 第10巻＞ 中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（前期）	介護	必修	1単位30時間	授業 形態（講義+演習）
科目名	介護総合演習Ⅲ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習 とする。

【授業の到達目標】

第3段階実習に必要な知識や技術の統合を行い、実習での教育効果を高める。実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を習得する。

【授業の内容】

1	実習報告会準備①
2	実習報告会準備②
3	実習報告会
4	実習報告会
5	3段階実習施設概要理解
6	3段階実習内容について
7	現場実習提出書類作成
8	夜勤実習について
9	事前訪問オリエンテーション
10	実習記録について①
11	実習記録について②
12	実習課題について
13	実習帰校日①
14	実習帰校日②
15	3段階実習振り返り

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。
評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	人間と社会	必修	1単位30時間	授業 形態（講義）
科目名	社会の理解Ⅰ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

1　個人や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的にとらえる学習とする。
2　人々の生活の場である地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。
3　日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。

【授業の到達目標】

1　個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造を学ぶことで、生活と社会の関りや自助・互助・共助・公助の展開を理解する。
2　地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方を理解する。さらに、その実現のための制度・施策を理解する。
3　社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解し、社会保障の現状と課題をとらえることができる。

【授業の内容】

1	オリエンテーション　人間と社会のとらえ方
2	生活の基本機能とライフスタイルの変化について
3	家族の機能と役割と構造や形態の変化及び社会・組織の機能と役割について
4	地域・地域社会、地域社会における生活支援ついて
5	地域福祉の発展
6	地域共生社会と地域包括ケアシステムについて
7	チェックテスト（第1章～第2章）
8	社会保障の基本的な考え方
9	日本の社会保障制度の発達
10	日本の社会保障のしくみ①　社会保険方式・年金保険
11	日本の社会保障のしくみ②　年金保険・医療保険
12	日本の社会保障のしくみ③　雇用保険・労災保険・各種社会扶助について
13	現代社会と社会保障制度
14	チェックテスト（第3章）
15	確認テスト（第1章～第3章）・GW（社会保障の意義と機能・少子高齢化と持続可能な社会保障のあり方）

【成績 評価の方法と基準】

講義への取り組み（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『社会の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第2巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	2年（後期）	人間と社会	必修	1単位30時間	授業 形態（講義）
科目名	社会の理解Ⅲ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

介護に関する近年の社会保障制度の大きな変革である障害者総合支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。

【授業の到達目標】

1. 障がい者福祉の動向について理解する。
2. 障がい者福祉に関する法体系について理解する。
3. 障がい者総合支援制度の仕組みについて理解する。

【授業の内容】

1	障がいについて考える（障がいとは？　障がい者の定義について）・障害者総合支援制度創設の背景及び目的
2	障害者総合支援制度の仕組み①制度の概要
3	障害者総合支援制度の仕組み②障害福祉サービス（介護給付）
4	障害者総合支援制度の仕組み③障害福祉サービス（訓練等給付）
5	障害者総合支援制度の仕組み④障害福祉サービス（地域生活支援事業）
6	障害者総合支援制度の仕組み⑤児童に関する制度
7	チェックテスト①第5章　障害者福祉に関するまとめ
8	人々の権利を擁護する諸制度①成年後見制度と日常生活自立支援事業
9	人々の権利を擁護する諸制度②虐待防止法と身体拘束ゼロに向けて
10	人々の権利を擁護する諸制度③消費者保護に関する制度・施策及び個人情報保護
11	保健医療福祉に関する制度・施策①健康日本21、医師法、医療法、地域保健法
12	保健医療福祉に関する制度・施策②感染症法
13	生活を支える諸制度：生活保護法、福祉資金、生活困窮者自立支援制度
14	チェックテスト②第6章
15	確認テスト（定期試験範囲まとめ）

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上　A　　70点以上80点未満　B　　60点以上70点未満　C　　60点未満 D

【テキスト】

『社会の理解』＜最新・介護福祉士養成講座　第2巻＞　中央法規出版

【参考書】

『福祉小六法』 中央法規出版

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（前期）	介護	必修	3単位90時間	授業形態（演習）
科目名	生活支援技術Ⅱ－Ⅱ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

加齢や障害により日常生活の継続が困難な方に対して、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を取得する。

【授業の到達目標】

1. 自立（自律）を尊重した支援の在り方について理解する
2. 残存能力を活用した（潜在能力を引き出す）適切な介護技術と知識を習得する
3. 利用者、介護者両方にとって安全な介護技術と知識を習得する。

【授業の内容】

1	自立した移動とは　移動の一連の動作
2	自立に向けた移動・移乗　移動動作の基礎となる理論（ボディメカニクス）
3	移動・移乗の介助における基本的な視点
4	体位変換の介助①　上方移動・水平移動
5	体位変換の介助②　仰臥位から側臥位（対面法・背面法）
6	身支度の介助①（ベッド上での着脱介助）
7	身支度の介助②（ベッド上での着脱介助）
8	体位変換の介助③　側臥位から端座位（座位保持が可能な利用者）
9	体位変換の介助④　側臥位から端座位（座位保持が不安定な利用者）
10	体位変換の介助⑤　端座位から立位への介助
11	身支度の介助①（座位姿勢での着脱介助）
12	身支度の介助②（座位姿勢での着脱介助）
13	身支度の介助③（ベッド上での口腔ケア①）
14	身支度の介助④（ベッド上での口腔ケア②）
15	前期振り返り

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅰ』 ＜最新・介護福祉士養成講座　第6巻＞　中央法規出版

『生活 支援技術Ⅱ』 ＜最新・介護福祉士養成講座　第7巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】

シ　ラ　バ　ス

令和8年度

智泉福祉製菓専門学校

基本情報	1年（後期）	介護	必修	3単位90時間	授業形態（演習）
科目名	生活支援技術Ⅱ－Ⅱ	担　当	安達　智一 介護福祉士としての実務経験		

【授業の概要】

加齢や障害により日常生活の継続が困難な方に対して、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を取得する。

【授業の到達目標】

1. 自立（自律）を尊重した支援の在り方について理解する
2. 残存能力を活用した（潜在能力を引き出す）適切な介護技術と知識を習得する
3. 利用者、介護者両方にとって安全な介護技術と知識を習得する。

【授業の内容】

16	実技試験について（前期振り返り）	31	身支度の介助（ベッド上での着脱介助）
17	実技試験練習①　着脱介助	32	身支度の介助（座位での着脱介助）
18	実技試験練習②　着脱介助	33	身支度の介助（ベッド上での着脱介助：和式寝間着）
19	実技試験練習③　排泄介助	34	福祉用具を活用した移乗介助①（スライディングボード）
20	実技試験練習④　排泄介助	35	福祉用具を活用した移乗介助②（リフト）
21	実技試験練習⑤　体位変換	36	移乗の介助（ベッドから車イス・車イスからベッドへの移乗）
22	実技試験練習⑥　体位変換	37	車イスでの移動介助①　段差越え・坂道
23	実技試験練習⑦　移乗介助	38	車イスでの移動介助②　不整地
24	実技試験練習⑧　移乗介助	39	歩行介助　杖歩行（3動作歩行・2動作歩行） 階段の上り下り
25	実技試験練習⑨　移動介助	40	入浴時の移動介助（ストレッチャーへの移乗・移動）
26	実技試験	41	排泄時の移動の介助 （車イスからトイレ・ベッドからポータブルトイレ）
27	介護現場の介護技術①	42	身支度の介助（洗顔の介助・整髪の介助）
28	介護現場の介護技術②	43	身支度の介助（髭剃りの介助・爪切りの介助）
29	介護現場の介護技術③	44	身支度の介助（器質的口腔ケア・機能的口腔ケア）
30	介護現場の介護技術④	45	まとめ

【成績評価の方法と基準】

講義への取組（出席・受講態度・提出物等）20%、定期考査の成績80%として評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。

評定は、評価点80点以上 A　70点以上80点未満 B　60点以上70点未満 C　60点未満 D

【テキスト】

『生活支援技術Ⅰ』＜最新・介護福祉士養成講座　第6巻＞　中央法規出版

『生活支援技術Ⅱ』＜最新・介護福祉士養成講座　第7巻＞　中央法規出版

【参考書】

【備　考】